

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 平成 23 年度市政懇談会開催報告
- 12 農産物の放射性物質測定
水道メーターボックス周辺の除雪と凍結防止対策
- 13 財政状況の公表
- 14 平成 23 年度市勢功労表彰
- 15 平成 24 年新年交賀会
- 16 奥州 3 大マラソン 2011 グラフ
- 18 市の出来事から
- 20 まちの話題
- 22 つながれ 広がれ NPO の輪
- 24 子そだて広場
わが家のアイドル
- 25 地域安全情報
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 26 キラリ人輝く
夢トーク
- 27 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 28 暮らしの情報
- 32 奥州遺産

〈今月の表紙〉



岩手鉄道模型仲間の会（佐藤徳代会長）主催による鉄道フェスタ 2011 in Zホールが 11 月 26 日、27 日の 2 日間、市文化会館（Zホール）を会場に開催されました。

写真は、小さい子どもを対象にミニ鉄道に乗ることができコーナーでの 1 枚。このほかにも、会場には鉄道模型や鉄道写真を展示するコーナーなどが設けられ、大勢の鉄道ファンや家族連れでにぎわっていました。

情熱の奥州人

15

鹿踊りは非現実の世界 すべてを忘れた無の境地

菅野 至さん（36歳）
江刺区玉里字熊野



一心不乱に稽古に励む至さん。稽古場には太鼓の音と荒い息遣いが響く

ダン・ダダン・ダン……。今夜も鹿踊りの太鼓の音が山あいに響く。12 月に入り、寒さが厳しい夜にもかかわらず、稽古を重ねる菅野至さんのひたいには汗が浮かぶ。

高校時代は、重量挙げに熱中し、インターハイへも出場した至さん。「山育ちなので、海に憧れた」と、大学では海洋物理学を学ぶ。川崎市にある大手電気関係の会社で、プログラマーとして勤めていたが、祖母の他界をきっかけに Uターン。26 歳のときだった。

学生時代に傾倒した宮沢賢治の作品に登場する鹿踊りに憧れ、友人と共に 30 歳で行山流角懸鹿躍（かげしやく）入門。踊り手としてのスタートを切る。デビューは、入門から 8 カ月後の「藤原の郷定期公演」。「友

人が先に初舞台を踏み、悔しさから自主練習を重ね、やっと踊れたうれしさでいっぱいだった」と、初舞台の興奮を照れくさそうに明かした。

15 歳にも及ぶ衣装。体力的にも極限を求められる。「装束を身に付け踊るとき、すべてを忘れて無になれる」とその魅力を語る。高校生から、60 代まで幅広い年代が揃う同保存会。妻・知世さん（あきよ）もその一員。「妻はライブであり、一番の批評家。手厳しい」と相手を崩す。

演舞では、中心的役割を担う中立（なかつら）を務める至さんだが「まだまだ先輩から学ぶことが多い」と向上心は尽きない。「鹿踊りの魅力を伝えたい」。その思いが、至さんの演舞に円熟味を増していく。



かんの・いたる◎昭和 50 年江刺区玉里字熊野生まれ。平成 13 年川崎市から Uターン。㈱デジアイズ勤務、行山流角懸鹿躍保存会所属。妻、2 女、父、母の 6 人暮らし